

新年特別号

日本医療機能評価機構

2015

1

月号

# NEWS LETTER

特集

## 当機構の国際的な活動: 国際医療の質学会 (ISQua)との 関係を中心に

医療の質・安全に関するオンラインセミナー (Webinar)  
医療の質・経営向上支援事業  
～両立する医療の質と経営の向上～

平成27年 年頭のご挨拶  
病院をたずねて  
活動報告  
Topics & Information



## 平成27年 年頭のご挨拶



(公財) 日本医療機能評価機構  
理事長 井原 哲夫

あけましておめでとうございます。平素より当機構事業に多大なるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当機構は、中立的・科学的な立場で医療の質・安全の向上と信頼できる医療の確保に関する事業を行い、国民の健康と福祉の向上に寄与することを理念としております。当機構の病院機能評価事業、産科医療補償制度運営事業、EBM医療情報事業、医療事故情報収集等事業、薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業、認定病院患者安全推進事業そして医療の質・経営向上支援事業は、いずれもこの理念の下で、取り組んできております。

病院機能評価事業では、一昨年4月より事業の枠組みを大きく改編した「機能種別版評価項目3rdG:Ver.1.0」の運用を開始しました。これは受審病院の事務的な負担を軽減し、より臨床現場の診療・ケアに即した評価となるよう開発されたものです。運用は順調に進んでおり、すでに多くの病院に受審いただいております。

さらに本年4月からは、認定開始から3年目となる年に質改善活動の取り組み状況について確認を行う「期中の確認」を制度化し、一昨年の国際認定を契機として評価項目を一部改訂、また機能種別版評価項目の1つとして「緩和ケア病院」を新設します。この国際認定とは、国際医療の質学会（International Society for Quality in Health Care：ISQua）が実施する国際認定プログラム（International Accreditation Programme：IAP）を受審し、認定をいただいたものです。

平成28年（2016年）には、毎年10月に行われているISQuaの国際学術総会を、当機構とISQuaの共催により東京国際フォーラムで開催することが決定しています。この総会には、例年70か国以上から1,000名を超える医療者・研究者が参加し、医療の質と安全の向上に関する成果を共有してきました。こうしたことにより、当機構の国際的なプレゼンスを益々高めていきたいと考えております。

本年7月に当機構は創立20周年を迎えます。これまでの皆さまのご支援、ご協力に感謝いたしますとともに、今後とも変わらぬご高配を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、皆さまのご健勝とご盛栄を心より祈念しまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

## 当機構の国際的な活動： 国際医療の質学会（ISQua）との 関係を中心に

執行理事 今中 雄一  
企画部国際室長 横山 玲

### 1. ISQuaとは

国際医療の質学会ISQua (International Society for Quality in Health Care) は、世界規模で医療の質・安全の継続的な向上を支援し発展させることを目的とした国際学術団体です。1985年に設立され、2014年6月現在、医療機関等の第三者評価を行う38か国の80団体および43か国の237名が参加しています。

ISQuaの主な事業は、①医療機関等の第三者評価機関の国際認定プログラム (International Accreditation Programme; IAP)、②国際学術総会、③フェローシッププログラムです。当機構は13年に①の国際認定プログラム (IAP) を受審し、評価項目および運営組織に関する認定を取得しました。

また、毎年10月に開催される国際学術総会は、14年は南米で初めてリオ・デ・ジャネイロで第31回総会が開催され、約70か国から1,000名を超える医療関係者、研究者などが集まりました（図1、写真1）。なお、15年はカタール、16年には東京で開催されることが決まっています。リオでの総会には当機構からも河北専務理事以下8名が参加して当機構の事業について発表を行ったほか、ブースを出展して16年の国際学術総会日本開催をアピールしました。



図1 第31回ISQua国際学術総会 バナー



写真1 開会式 (ISQua理事長・Prof. David Bates)

## 2. 各国における医療の質向上および第三者評価の取り組み

国際学術総会の中で、特に印象に残った発表をご紹介します。なお、全日程のプログラムおよび講演の要旨、スライド、録画等の資料を以下のサイトからご覧いただけます（英語、<http://www.isqua.org/conference/rio-de-janeiro-2014/welcome-to-isqua-2014/sunday-5th-october-2014>）。

### (1) “Quality and Safety along the Health and Social Continuum” by Dean Julio Frenk; MX

メキシコの元厚生大臣・Dr. Frenkから、メキシコにおける医療制度改革をテーマにオープニングプレナリーとして講演がありました（写真2）。医療の質と倫理を向上させるために、研修制度や、指標を用いた評価、表彰制度、医療保険制度に関連させた第三者評価などを導入した経験についてお話しされました。厚生大臣の介入という究極のトップダウンによって改革が進められたということをとでも感じさせられる講演でしたが、特に、「技術面では有効性と安全性、人間関係の面では信頼性と個人の尊重が医療の質である」という定義、および「社会保障 (social protection) は、費用面をカバーする保険制度 (health coverage) だけでなく、質や倫理も含むものである」「患者中心 (Patient-oriented) にとどまらず、家族、地域住民も含めた<顧客>中心 (Client-oriented) へ」というメッセージが強く印象に残っています。

ディスカッションでは、①高齢化社会を迎えて慢性疾患が増加していること、②JCI (Joint Commission International) のような国際的な第三者評価と各国独自の第三者評価のどちらが有用なのか、などの点について意見交換がなされました。「国際的な第三者評価で認定される病院における医療の質と、一般の国民が受診する病院の医療の質の差が大きい」「国際的な第三者評価を受審するには非常に高い費用がかかる」（インドネシアからの参加者）など、各国における第三者評価および医療の質の現状に即した発言がありました。



写真2 Dr. Julio Frenk

### (2) “Do Short-Notice Reviews Remove the 'Staged' Reality of Surveys?” by R. Marthinsen; DK

デンマークの第三者評価機関・IKAS (Danish Institute for Quality and Accreditation in Healthcare) のMarthinsen氏からは、“Accreditation and External Evaluations Systems (認定および外部評価システム)”という分科会の中で、予告なしの訪問審査と事前に日程を伝えてから行った訪問審査の差に関する発表がありました。IKASでは、通常、53項目からなる評価項目を用いた事前告知ありの訪問審査を行っていますが、今回の研究では、認定後の病院を対象に、2日前に連絡して特に重要な11項目について審査する“Short-Notice Review (予告なし審査)”を実施しました。

予告なし審査の対象となった病院の職員およびサーベイヤーへのインタビュー、ならびに事前告知の有無による評価結果の差を評価したところ、「予告なしの審査の方が準備の負担は小さい」「認定された内容が実行されているかどうかを評価するには予告なしの審査の方がよい」「予告なしの審査では、通常の訪問審査と異なる点が指摘される傾向にある」という結論になりました。

この発表に対し、フロアから「受審準備期間に改善に取り組むことが質向上につながる。予告な

しの審査では改善に取り組む機会を失うのではないか」という質問がありましたが、「改善が日々行われていれば、予告なしだからといって改善の機会が失われるわけではないのではないかと回答していました。

### 3. 当機構からの発表

当機構からは、表1の6演題を発表しました。今中理事の発表について「医療の質の地域差は何に起因するのか」、後理事の発表について「医療事故報告のデータベースが国全体のレベルで安定して動いていることは素晴らしい」「同様の制度を立ち上げたいと考えているので具体的なことを教えてほしい」等の質問・ご意見がありました。

表1 当機構から発表した演題一覧

No.	演題	演者
1	A New Program For The Sustainability Of High Quality Care To Further Improve Accredited Hospitals: An Analysis Of First-Year Achievements In The Cost-Containment Era 医療の質の持続可能性向上へ向けて：初年度成果報告	今中理事 (口頭発表；写真3)
2	Appraisal And Major Revision Of No-Fault Based Compensation / Causal Investigation System For Cerebral Palsy 脳性麻痺事例に対する無過失補償・原因分析・再発防止の制度の評価と見直し	後理事 (ポスター発表)
3	Integration Of Evidence-Based Practice And Patient-Centered Care By Clinical Practice Guidelines; The Current Status In Japan 根拠に基づく診療と患者中心医療の診療ガイドラインによる統合；日本の現状について	山口理事 (ポスター発表；写真4)
4	Clinical Practice Guideline-Based Information Tool for Patient and Public 患者・市民のための診療ガイドラインに基づく医療情報ツール	奥村リーダー (口頭発表；写真5)
5	Role Of Web-Based Nationwide Medical Adverse Event Reporting System In Planned Clinical Investigation System On Patient Death In Japan 予定される患者の死亡調査制度における全国規模の有害事象web報告システムの役割	後理事 (口頭発表；写真6)
6	Enhanced Communication Between Hospital/Clinic And Community Pharmacy To Identify Error On Prescription Through Nationwide Pharmaceutical Near-Miss Event Reporting System 処方せんの誤りを発見するための、全国規模のヒヤリ・ハット事例報告システムを通じた病院・診療所及び薬局間のコミュニケーションの促進	後理事 (口頭発表)



写真3 今中理事発表

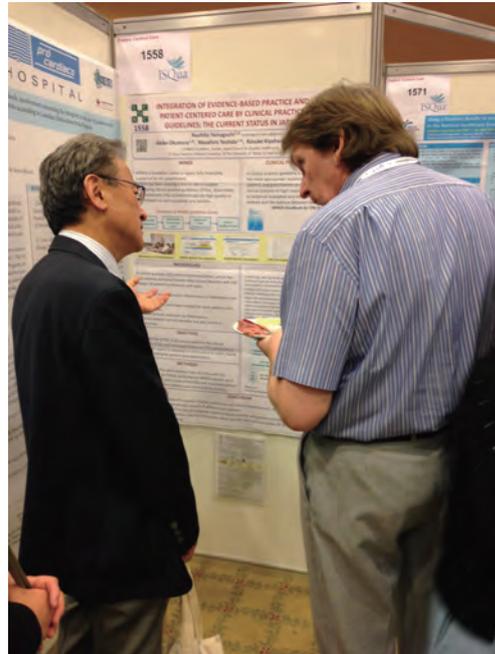


写真4 山口理事発表



写真5 EBM医療情報部・奥村リーダー発表



写真6 後理事発表

## 4. ブース出展

昨年に引き続き当機構のブースを出展し、当機構事業および16年の国際学会日本開催をアピールしました。折鶴や法被などが注目を集め、3日間で約400名の参加者に来場いただきました（写真7、8）。



写真7 ブース風景



写真8 ブース風景

## 5. 今後のISQua国際学術総会について

前述の通り、15年の国際学術総会はカタール・ドーハで開催されます。演題登録はすでに始まり、2月12日（木）が締め切りです。また、16年の東京開催（図2）の準備のため、14年11月にISQua事務局次長・Ms. Triona Fortuneとイベント部長・Ms. Eadin Murphyが来日し、会場となる東京国際フォーラムを視察したほか、当機構等と打合せを実施しました（写真9）。詳細が決まり次第、随時お伝えしていきます。



図2 2016年第33回ISQua国際学術総会 バナー



写真9

左から、佐久間事務局次長、菅原企画部長、横山国際室長、平田総務部長、上田理事、鈴木理事、ISQua事務局次長・Ms. Fortune、ISQuaイベント部長・Ms. Murphy、企画部・山野

# 医療の質・安全に関するオンラインセミナー (Webinar) ウェビナー

今年度より、国際医療の質学会 (ISQua) と連携し、約1時間の日本語Webinarを無料配信しています。これまでに3回実施し、医師・看護師・研究者等を含む約250名の方にご参加いただきました。基本的には個人で登録・視聴していただく形式ですが、院内にスクリーンを設置し、職員研修の資料として利用して下さった病院もあるそうです。

なお、セミナーのスライドと録画はISQuaのウェブサイトに掲載されていますので、是非ご活用ください。(http://www.isqua.org/education/japanese-webinars : 日本語あり)

## 1. 過去のWebinar

### ■ 第1回「QIと病院経営：アウトカム向上への包括的アプローチ」

演者：今中 雄一 (当機構理事/京都大学大学院医学研究科教授)

開催日：7月1日(火) 20:00～21:00

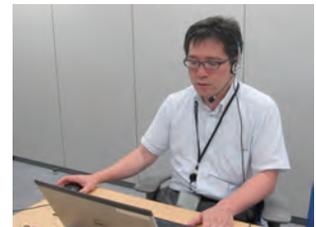
内容：医療の質向上は個々の医療者の努力だけでなく、病院組織全体で取り組むことが重要との認識から、組織として医療の質向上に取り組む上で重要な項目のチェックリスト (暫定版Ver.1) をご紹介しました。

### ■ 第2回「医療事故情報収集等事業の現況について」

演者：後 信 (当機構理事/九州大学病院医療安全管理部教授)

開催日：7月22日(火) 20:00～21:00

内容：当機構の医療事故防止事業に関する紹介および医療事故調査制度との関連について講演しました。特に、本事業の目的が責任追及ではなく再発防止にある点を強調してお話しました。



### ■ 第3回「日本における診療ガイドラインの活用促進」

演者：山口 直人 (当機構理事/東京女子医科大学医学部教授)

開催日：10月21日(火) 20:00～21:00

内容：診療ガイドラインを日常診療で更に活用してもらうことを目的として実施した、研修医に対するインタビュー調査の分析結果、および今後の対策を中心に講演しました。

## 2. 今後の予定

次回は、2月10日(火) 19:00～20:00、後理事の「産科医療補償制度による医療の質向上について(仮)」です。お申し込みは当機構ホームページ「イベント情報」をご覧ください。

また、来年度も引き続きWebinarを実施する予定です。詳細が決まりましたらニュースレター等にてご案内します。皆様のご参加をお待ちしております。

# 医療の質・経営向上支援事業

## ～両立する医療の質と経営の向上～

2013年度より「医療の質・経営向上支援事業」を開始しました。この事業は、病院における医療の質の向上を図るとともに、その達成には健全な経営も重要とするコンセプトに基づき、病院機能評価認定病院に対する更なる支援プログラムとして実施しています。各病院が、医療の質の向上と財務的成果の好循環により、健全かつ安定的な経営基盤を確保できるよう支援することを目的としています。

本事業の特徴は、以下の4点です。

- ①病院が主体的に改善活動を進められるように支援する
- ②地域における特性を考慮し、病院それぞれに合った支援を行う
- ③将来的な医療提供体制等の動向も見据えて、中長期的な視野で支援を行う
- ④質の高い医療が持続的に提供される仕組みづくりを支援する

2025年に向けた医療機関の機能分化や強化、連携、在宅医療の充実など、病院が取り組んでいかなければならない課題は山積しておりますが、先の4つの特徴を重視しながら、当機構が、病院の医療の質の向上と経営の向上の両立を第三者機関の立場で支援してまいります。

支援実績の一つをご紹介します。当事業のスタートアップ業務を通じて、病院が将来目指すべき姿について、医師をはじめ看護師、コメディカル、事務職員等にさまざまな考えがあり、ビジョンが定まらない状況が確認されました。このため、続くフォローアップ業務において、全部署、全職種参加によるビジョンの策定検討会開催を提案し、当日は活発な意見交換が実現しました。各人の熱い思いを基に、現在院内では3～5年先を想定した中期ビジョンの策定と、来期の単年度目標策定に継続して取り組んでいます。



ビジョン策定検討会当日の様子

当事業は、今後も以下の検討・実施を通じて支援内容の拡充を図り、多くの病院の発展に寄与していきます。

- 医療の質・経営向上支援セミナーの開催
- 医療の質と経営の向上に関する研修会・勉強会の開催
- 事業ホームページ、フェイスブック等を活用した情報発信
- 病院の先進的な改善実施状況等の取材

事業に関するご興味、ご質問などございましたら、当機構企画部までご連絡ください。

事業ホームページ：<http://shitsu-keiei.jcqh.or.jp/index.html>

医療の質向上のためにユニークで先進的な取り組みをしている病院を紹介しております。

# 患者満足度調査はフォローコールできめ細かく

社会医療法人友愛会 豊見城中央病院

「最近では、退院した患者さんのうち平均して40～50%の方から、退院後3日以内にその後の容体や病院に対するご意見を聞くことができている。よくできている病棟では、この数字が90%以上になっている」。潮平院長は、いま最も力を入れている患者満足度調査に対する職員のモチベーションが上がってきていることに手応えを感じています。

入院患者さん全員に、退院する前日にアンケート用紙をお渡しし、会計が終了するまでに記入済みのものを提出してもらいます。そしてさらに退院後、3日以内に病棟の師長あるいは主任が、患者さんに電話をかけて聞き取り調査を実施します。ここで患者さんのその後の容体や、入院中に記入を漏らしたことなども追加で聞くことができます。この電話による調査は、患者満足度を劇的に改善させたことを記録した米国の著書「UCLAヘルシステム」を参考に3年ほど前から取り入れたものです。

この退院患者数に対する電話の聞き取り調査数の比率を引き上げることに苦勞を要しました。潮平院長は、この「UCLAヘルシステム」と同じく米国の著書「エクセレント・ホスピタル」を職員に読むよう勧めました。そして職員に対して、どのようにして医療の質、サービスの質を上げていけばよいかを熱心に語りかけました。こうして比率はしだい



に上がってきました。

エクセレントホスピタルを目指すためにQC活動もさかんに行われています。1998年に看護局を中心に外部講師を招いた勉強会を開始し、その1～2年後から勉強会を続けながら毎年1回、発表会を実施しています。発表会では優秀なチームが表彰されます。

メンバーは看護師ですが、問題点をまず出し合って、他部署に提案していくべきものについてはその部署も巻き込んで活動しています。

潮平院長は、このQC活動をTQMに進化させ、いずれはトヨタ生産方式のような無駄をなくすさまざまな改善活動に発展させていきたいと考えています。

すべての活動には、「提供する医療の質、サービスについて職員が誇りを持てるレベルを目指し、職員がこの病院で働いてハッピーと思える病院を作りたい」(同院長)との思いが込められています。

(企画部 林 秀行)

## 社会医療法人友愛会 豊見城中央病院

沖縄県豊見城市字上田。許可病床数376床。1998年11月認定第GB0071号（一般B）、2004年3月認定第GB0071-02号（一般200床以上500床未満）、09年2月認定第GB71-3号（同）、14年5月認定第GB71-4号（一般病院2（200床以上500床未満）（主たる機能））。

# 活動報告

## International Society for Evidence-Based Health Care (ISEHC) Conference 2014参加報告

EBM医療情報部では、海外動向調査を活動の柱の1つとしています。このたび、11月6日から9日まで台湾の台北で開催された「第3回 ISEHC Conference」に参加しました。

今年のテーマは「Knowledge Translation and Decision Making for Better Health: Challenge of Glocalization」でした。参加者は24か国から532名、日本からは8名、うち、日本医療機能評価機構からは山口直人特命理事をはじめとして6名が参加しました。

354件から260件に絞り込まれた演題の中で、当機構からMindsの活動について1件の口演、4件のポスター発表を行ないました。また、山口理事は、診療ガイドラインの活用に関する日本の現状と未来について教育講演を行いました。

本会議では、蓄積されるエビデンスを評価・統合する方法、実際の患者や地域といった特定の状況・特性にあわせてエビデンスを適用する方法、およびその教育方法などについて、多様な提案がなされ、活発な議論が交わされました。

EBM医療情報部では収集した内容を海外動向調査としてまとめて公表するように準備しています。今後も海外動向に関する調査・報告を通して、EBMの普及に努めていきます。



## CVC研修会を開催しています

認定病院患者安全推進協議会では、2004年に中心静脈カテーテル留置術（CVC）に関する安全確保を目的に指針を発信し、09年よりCVC研修会を毎年開催しております。今年度からは、近年の末梢挿入型中心静脈カテーテル（PICC）の普及をふまえ、プログラムを改定し、実施しております。

研修会では、本邦でCVCとPICCの研修に中心的な立場を担っておられる医師を講師に招き、受講者に病院内での研修や教育に関わって頂き、院内又は地域へ広めて頂くことを目標としております。安全確保のための標準手技やインストラクター制などの座学講義に、ファントムを使用しての穿刺の実技などを織り交ぜたプログラムです。是非ご参加ください。



## 医療事故情報収集等事業

医療安全情報（11月17日・12月15日情報提供分）  
No.96「インスリン注入器の取り違い」  
No.97「肺炎球菌ワクチンの製剤の選択間違い」

医療安全情報 No.96 2014年11月17日

インスリン注入器を使用して薬を注入する際、別の患者のインスリン注入器を取り違えた事例が報告されています（2014年11月17日～2014年12月15日の情報提供分）。報告内容は以下の通りです。

患者の状況	発生状況	原因	対応状況
1. 糖尿病、高齢者、認知機能低下	インスリン注入器の取り違い	患者本人の誤り	医師による確認
2. 糖尿病、高齢者、認知機能低下	インスリン注入器の取り違い	医師の誤り	医師による確認

インスリン注入器の患者名の記載が不十分、または患者の記載がなかったため、別の患者の注入器と取り違った事例が報告されています。

No.96（1ページ目）

医療安全情報 No.97 2014年12月15日

「肺炎球菌ワクチンの製剤の選択間違い」

肺炎球菌ワクチン接種を受ける際、医師の指示を正確に読んでいないことにより、異なる製剤を選択した事例が報告されています（2014年12月15日の情報提供分）。報告内容は以下の通りです。

患者の状況	発生状況	原因	対応状況
1. 高齢者、認知機能低下	肺炎球菌ワクチンの製剤の選択間違い	医師の誤り	医師による確認
2. 高齢者、認知機能低下	肺炎球菌ワクチンの製剤の選択間違い	医師の誤り	医師による確認

肺炎球菌ワクチンは、製剤によって接種対象者の年齢が決まっています。

No.97（1ページ目）

詳しくはWEBで <http://www.med-safe.jp/>

# Topics & Information

各イベントの申込み方法、詳細については当機構のホームページのイベント情報をご覧ください。開催日の概ね2か月前よりお申し込みの受付を開始します。

<http://www.jcqhc.or.jp/> 日本医療機能評価機構▶ホーム▶イベント情報

## 1月

### ■医療の質・経営向上支援セミナー

- [日 時] 1月31日(土) 13:00~17:00  
[テーマ] 地域医療ビジョン構築と病院のあり方  
[会 場] 当機構 9階ホール  
[対 象] 病院の院長・事務長・看護部長等  
病院経営に携わる方  
[募集人数] 100名程度  
[参加費] 1名:5,000円  
[備 考] セミナー終了後にアドバイザーとの意見交換会(事前申込要)を実施します。  
[申込方法] 当機構ホームページ「イベント情報」欄よりお申し込みください。  
[問合せ] 企画部(03-5217-2335)

## 2月

### ■第4回 医療の質・安全に関する ウェビナー オンラインセミナー(Webinar)

当機構より、医療の質・安全に関するオンラインセミナーをライブ配信します。

- [日 時] 2月10日(火) 19:00~(約1時間)  
[テーマ] 産科医療補償制度による医療の質向上について(仮)  
[演 者] 当機構理事 後 信  
[対 象] 医療者・病院関係者等  
[形 式] 45分講義+15分質疑応答  
インターネット環境が必要です。  
質問はチャット形式で受け付けます。  
[参加費] 無料  
[申込方法] 事前登録制  
当機構ホームページ「イベント情報」欄よりお申し込みください。  
[問合せ] 企画部(03-5217-2335)

※Webinarの録画と講演資料は、後日ISQuaのウェブサイトに掲載されます。

(<http://www.isqua.org/education/japanese-webinars>)

## 3月

### ■平成26年度 患者安全推進全体フォーラム

認定病院患者安全推進協議会では、年間の協議会活動を総括して、年度末に1回「患者安全推進全体フォーラム」を開催しています。

- [日 時] 3月7日(土) 10:00~16:40  
[会 場] 東京ビッグサイト(東京都江東区)  
7階 国際会議場  
[参加費] 会員病院無料  
会員病院以外の医療機関  
1名:5,000円  
[問合せ] 評価事業推進部(03-5217-2326)  
詳細は協議会ホームページをご覧ください。

### ■患者安全推進ジャーナルのご案内

当機構の認定病院患者安全推進協議会が発刊している機関誌です。No.38が発行されました。

- 会員病院(1,000円+税)  
認定病院患者安全推進協議会のホームページより会員サイトへログインのうえ、お申し込みください。会員病院価格となります。
- 会員外病院(3,000円+税)  
当機構ホームページ>出版・ダウンロードからお申し込みください。

#### 編集後記

今月号は新年特別号として、お伝えする内容も盛りだくさんいたしました。  
本年もより役立つ情報を発信できるよう努めてまいります。  
引き続きのご愛読よろしくお願ひ申し上げます。

日本医療機能評価機構

**NEWS LETTER** 2015年1月1日発行  
(奇数月1日発行)

発行:公益財団法人日本医療機能評価機構

発行責任者:井原 哲夫

〒101-0061 東京都千代田区三崎町1丁目4番17号 東洋ビル

TEL:03-5217-2320(代) / (編集:企画部) 03-5217-2335

<http://www.jcqhc.or.jp/> / e-mail:order\_news@jqhc.or.jp

本誌掲載記事の無断転載を禁じます